

7月21日 コМПレックス

小学校高学年の頃、近所の悪ガキ連中とよく“かくれんぼ”をして遊んでいた。雨上がりの日だった。芝生の中にある電柱にタッチすれば生還できるルールだったので、鬼の目を盗んで全速力で電柱を目指した。手前でスピードを緩めたが、ぬれた芝に足を取られて電柱に激突した。幸い笑いながらぶつかったので、右の前歯を折るだけで済んだ。

親に大目玉を食らいながら歯医者連れて行かれ、治療。数日後、折れた箇所を銀歯で継ぎ足された。

思春期を迎える頃、この銀歯が恥ずかしくて人前で笑わなくなった。もともと根暗な性格をさらにこじらせた。

この銀歯がよろしくないのは見かけだけではなかった。最初の治療がいい加減だったせいか、冬場にジンジンうずくようになった。高校3年生の頃、痛みを耐えかねて歯医者に行った。レントゲンで、膿がたまっていることがわかった。ところがこの医者もよろしくない。半分の銀歯を外すことができなくて、歯の真ん中を削って治療することになった。おかげ様で痛みはなくなったが、銀歯の真ん中に半月状のくぼみができる。最後に白いセメントで埋めてはくれたが、「銀歯の水平線に沈む満月」のような前歯になってしまった。私の生活から完全に笑顔が消えた瞬間だった。

父も笑わない息子が不憫だったのだろう、大学病院に勤めていた知り合いの名医が開業すると聞いて、その歯医者連れて行ってくれた。仙人のような先生だった。「どうしましたか」ニコッと笑った先生の歯は“ボロボロ”だった。名医は私の歯を見るなり、「かわいそうに……」といって、魔法の手で2、3回、ユルユルと銀歯を横に揺すった。「ポロッ」うそのように外れた。

一ヶ月以上治療に費やしたが、真っ白な前歯になった。今でいうインプラントだ。「20年は持つよ」と言われたが、今年で37年。未だにびくともしない。父は、「あの人は、人の歯を治すのに精一杯で、自分の歯はほったらかしなんや」と言った。

ボロボロの歯を見せて笑った先生。頑なに笑わない自分が恥ずかしくなった。

